

「手すり」完成！稲田多摩川公園



稲田多摩川公園 手すり

稲田多摩川公園のトイレの設置が完了し、その後とてもご要望の多かった急階段の手すり。多摩川は管轄が多岐に及ぶ場合もあり、調整に時間を要しましたが、このほど完成いたしました。お氣をつけてご利用下さい。

障がい者団体さんからのご要望をお届け



登戸土地区画整理事務所へ障がい者団体さんからのご要望をお届け

多摩区肢体不自由児者の会さんよりまちづくりのご要望を頂き、区画整理事務所へ。障がいのある方が使いやすい街はみなさまが使いやすい街。登戸土地区画整理事業も終版を迎えています。より良い完成を目指し最後までしっかり取組んでまいります。ご意見ご要望をお寄せ下さい。

子どもの声を政策へ ～小学生と意見交換～



小学生の質問・意見はすこいです！

現役小学生と意見交換。給食、公園、体育館など、疑問に答えつつ、子どもたちの視点に目から鱗、感心しきりでした。次世代は頼もしくやさしいです。老若男女みんなの声を政策へつなげてまいります。みんなの声を政策へ。

川崎市・多摩区総合防災訓練



避難所医療訓練会場

海上自衛隊の方々

多摩区が市のメイン会場となり、南菅中学校・多摩区スポーツセンター・多摩川河川敷の3会場で開催されました。避難所医療訓練・要配慮者支援訓練会場では非常用電源、投薬の管理、要配慮者の差配システムなどについて課題を感じました。気象庁のブースでは長周期地震動について何うなど貴重な体験もできましたが、参加者が少なく、市民のみなさまが自分ごととなるさらに実践的な訓練が必要と感じました。課題を検証し政策提言します。

超党派でヒアリング



超党派ヒアリング@麻生市役所

麻生区役所で開催された地域包括センターのセンター長会議に超党派の有志議員で参加しました。現場の声を直接伺う貴重な機会は予定時間が全く足りない、中身の濃いものとなりました。地域包括ケアシステムが人手不足や時代遅れのルールによって、現場の負担が大きくシステムが機能しなくなりつつあります。課題を分析し、改善点を見出し、有志議員で協力して政策提言につなげます。

市政を身近にAkikoの部屋



毎週火曜日、音声SNSで開催。3月12日現在115回を数えます。

毎週火曜日の夜にclubhouseという音声SNSでトーク。コロナ下で始めた企画も115回を超えました。FacebookやYouTubeなどでも発信しています。市政を身近に感じて頂けるよう、これからも様々な手法で努めてまいります。



吉沢 章子 通信

https://yoshizawa-akiko.jp 川崎市議会議員 一級建築士

無所属

ごあいさつ

みなさまこんにちは。今年の干支甲辰年は「春の日差しがあまねく成長を助く年」であり、良いことにも都合が悪いことにも平等に光が当たり、変化と成長を促す年とされています。激動の幕開けとなりましたが、圧倒的な自然の力と人の素晴らしさを改めて感じています。自然災害もヒューマンエラーによる事故も、起きてしまうことは不可避であっても、人の智慧と行動によって大難を小難に「減災」することは可能です。いつも申し上げております「むやみに怖がらず、正しく恐れ、侮らず」の精神で、もう一度身近なリスクを見直して備えましょう。被災地へは息の長い支援が必要です。出来ることを出来るだけ、ともに手を携えて参りましょう。今年の漢字は「芯」としました。心に芯を立て、体に芯を立てる。ブレない太い柱を心身に立て、力強く、愛深くありたいと存じます。今号は昨年9月・12月の議会報告です。是々非々の精神で信念をもって質しましたので、ご一読頂けると幸いです。甲辰年は「積み重ねてきた努力が実を結ぶ縁起の良い年」とも言われています。吉沢は「年女」です。激動の時代をみなさまと龍のように乗り越え、努力が報われる笑顔の多摩区・川崎市の創造にさらに取組んでまいります。



市政を身近に

column

ご存知ですか？地域包括ケアシステム



地域包括ケアシステムとは？

人口減少社会の現在、今後の医療・介護需要の急増という課題に対して、医療・介護などの専門職だけでなく地域の様々な人が力を合わせて対応していく体制です。

川崎市のめざす「地域包括ケアシステム（略して地ケア）」とは

今ケアを必要としている方も、必要としていない方も含めた「すべての市民」を対象に、住み慣れた地域や自らが望む場所で安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指し、あらゆる行政施策や地域・団体・機関などが一体となって、地ケアの構築を進めています。  
※ 地域・団体・機関など…住民、町内会・自治会などの地縁組織、民生委員児童委員や保健・医療・福祉などの地域・ボランティア団体・機関や民間企業を含む事業者

あなたができる地ケアの取組

例えば、規則正しい生活を送ることや健康維持のための散歩は自助(=自分自身のケア)、ご近所同士でのあいさつや気かけあうこと、地域活動への参加は互助(=みんなの支え合い)など、日常の中にも地ケアの取組がたくさんあります。

困ったときはどこに相談すれば良いの？

子育てや介護などさまざまな困りごとを相談できる場所があります。相談先を知っておくことも、自助や互助の取組にあたります。インターネットで「川崎市 <下記各相談場所名>」で検索いただくと最寄りの窓口・連絡先をご確認いただけます。

妊娠出産子育て	地域活動など	高齢者・介護	障がいなど
<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所地域支援課(全般)</li> <li>児童家庭支援センター(子育て・養育等)</li> <li>地域療育センター(子どもの発達等)</li> <li>児童相談所(養育、虐待等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かわさき市民活動センター(市民活動全般)</li> <li>ボランティア活動振興センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所高齢・障害課(介護保険、高齢者福祉)</li> <li>地域包括支援センター(全般)</li> <li>認知症コールセンター ～サポートほっと～(認知症の家族の悩み)</li> <li>あんしんセンター(権利擁護、後見等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所高齢・障害課(全般)</li> <li>障害者相談支援センター(障害のある方やその家族のための専門相談)</li> <li>こころの電話相談(こころの健康や精神保健福祉についての相談)</li> </ul>

川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト

https://www.kawasaki-chikea.jp

吉沢章子事務所・プロフィール



ご意見・ご相談は  
お気軽に！

214 - 0014

川崎市多摩区登戸1768 吉澤ビル102

TEL 044-933-8018 FAX 044-933-8032



Facebook

吉沢章子



Instagram

吉沢章子



Youtube

@あっこチャンネル

- S39年 3月14日多摩区に生まれる
- S59年 菊竹清訓建築設計事務所 勤務
- H08年 吉沢章子建築設計事務所 開所
- H15年 川崎市議会議員 初当選
- H29年 川崎市長選挙 出馬
- R01年 川崎市議会議員 5期目当選
- 趣味 サッカードライブ 絵を描く 詩を描く 歌を詠む

# 9月決算審査特別委員会・12月一般質問 議会報告

## 身近な声から「ごみ問題」を政策提言

### ごみ収集への苦情・感謝の声を反映

環境費の42パーセントを占めるごみ処理費は128億7,842万9,324円（令和4年度決算）市民に最も身近なサービスです。以前の議会で市民の皆様からのご意見の収集、分析、共有等を提案、生活環境事業所の職員の言動に対する苦情は191件、感謝は18件（令和4年10月～5年8月）との結果報告がありました。苦情は市民サービスの改善、謝辞は職員のモチベーションに役立っていることから、今後も分析を行い、職員の待遇力向上・再発防止に向けた取り組みを推進するとの回答を得ました。情報を共有し分析することは職場風土の改善及び市民サービスの向上につながります。市全体に波及していくためにも引き続きの取り組みを要望しました。

### ごみ集積所の課題解決に向けて

ごみ集積所は基本的に町会・自治会等で設置・管理して頂いています。町会未加入の方についての相談も生活環境事業所で応じていますが、解決事例等を示しながらわかりやすくより丁寧な対応を求めたところです。しかしそもそも町会、近隣住民、ゴミを捨てる場所がない入居者が困っている「ごみ難民」を生む根幹の問題は、集合住宅や戸建ての新築の際、10戸未満であれば「ごみ集積所の事前協議対象外」となり集積所を作らなくても済んでいるからと考え「10戸未満の協議義務化」を求めました。「必要な対策の検討を進め同時に啓発も行う」との答弁を得ましたので、条例改正を含む早急な実現を求めました。事業者に対して「事前相談の必要性」を周知するよう、関係団体等を通してさらに普及活動を進めていくことを確認。関係局とも連携して市民最優先の対策を講じるよう要望しました。



私たちは毎日マイクロプラスチックを食べています。WWF（世界自然保護基金）によると、1人の摂取量は1週間でクレジットカード1枚分、1か月でレゴブロック1個分、1年で消防隊のヘルメット1個分だそうです。清掃活動はとても大事ですね！



### 清掃活動は最大9割減！マイクロプラスチック削減の効果あり！

2年前の決算審査特別委員会で質問した「マイクロプラスチックごみ調査」について結果報告を求めました。河川調査では全国平均より個数密度が高い傾向にあり、降雨時には個数密度が10倍程度増加。市街地では道路上でも確認。乗降者数の多い駅前は特に個数密度が高い。また定期的な清掃活動を行なっている場所は低く、清掃活動は街の美化だけでなくマイクロプラスチックごみ最大9割の削減効果が確認できたということでした。また今回得た知見をあらゆる機会に市民に広報するとの見解でした。清掃活動を続けてくださる皆さまに事実を踏まえて感謝を伝えるとともに、調査結果を活用して市民の更なる行動変容につながる取組みを要望。あわせて、基礎研究やベンチャー企業などが憂いなく研究開発ができるよう予算を含めた環境整備を要望しました。

※2023年9月26日 神奈川新聞に掲載されました。

## 災害対策本部＝新本庁舎の安全対策

2023年10月、旧庁舎の本会議場で川崎市議会・議場閉場式が行われ、翌月11月に新本庁舎が開庁しました。地上25階地下2階の超高層ビルです。建物の特性を知り、災害時も慌てず「災害対策本部」として市民の命を守るための備えを一級建築士の視点で提案しました。



川崎市議会・議場閉場式 父と一緒に議場に立つのは初めてです。

### 長周期地震動のリスクと対策を確認

先進的な免震機能を備えていても高層建築特有の課題が生じる可能性があり非常用発電機の設置やエレベーターの停止システム等減災対策は施してあるものの、基本的なOA機器や什器等の転倒防止対策や職員一人一人がリスクを正しく理解し避難行動の習得が必要であることを確認しました。

### 災害時市民を助けるため職員の身を守る避難訓練

移転完了後本庁舎の職員数は約2,900人。職員一人一人が超高層のリスクを体感し災害時には迅速に避難行動が取れるよう庁舎全体での避難訓練の実施を提案し移転完了後に訓練を実施するとの回答を得ました。

※新本庁舎の25階は展望ロビーです。どなたでもご利用頂けます。



川崎市役所新本庁舎

## それおかしくないですか？ 是々非々で行政改革。

### 上下水道局の体質改善について

不正請求の発覚以来、再発防止・職場風土の改善を指摘しているなか、新たにアンカーフロンタウン生田の設備購入において、特定事業者の製品を意図的に選定したのではないかとこの疑惑が浮上し、9月の決算審査特別委員会において調査を求めました。問題視したのは①職場風土②公金支出にかかる透明性と合理性③説明責任④再発防止についてです。上下水道局内部調査の結果は「適正な選定」「疑惑は職員の勘違い」でしたが「適正」を証明する書類が処分されて存在しないこと、職員のヒアリングにあたり客観性が担保されていないこと、未だに委員会への報告がなされていないことなどを指摘。仕事は「組織防衛」ではなく「市民のため」にあるとし再発防止を求めました。外の風が入りにくいいわゆる「ガラパゴス体質」の組織風土が問題の根幹であり、他部局との人事交流も求めました。市長には、組織の膿を出し切るとともに失敗をおそれず挑戦できる職場風土の醸成と市民の命と未来に責任を持つリーダーシップを求め「先頭に立つ」との答弁を得ました。

※2023年9月26日以降新聞各紙に掲載されました。フジテレビ「めざましテレビ」の取材を受け放映されました。引き続き「市民のための行政」に是々非々で尽力してまいります。



### 水道料金値上げ？ それはNO!

京浜工業地帯の発展に寄与してきた工業用水道事業ですが、鉄鋼大手JFEスチールの撤退など、産業構造の転換や、経年化率（老朽化）87.7%に上る管路への対策など、事業の分岐点に立っています。市は計画を策定中ですが、その中で、工業用水のマイナス分を水道料金に転嫁するのではないかと、とも受け取れる動きを発見。決算審査特別委員会できりあげ、くれぐれも水道料金の値上げなど市民に負担がかかることのないよう釘を刺しました。



### 五反田川放水路の事故について

8月1日工事中にあってはならない事故が発生。亡くなられた方にご遺族に心より哀悼の誠を捧げるとともに事故の要因と再発防止及び今後の工事について質問。要因は予想よりも早い天候悪化と急激な増水で資材の撤去が遅れたためであり、今後は作業場への流水を遅らせる処置や避難訓練の実施等で安全対策を図りながら施設運用に必要な工事を進めていくとの回答を得ました。工事現場の更なる安全と人命を優先に避難を迅速にするように重ねて要望しました。

※2023年12月20日 東京新聞に掲載されました。



五反田川放水路計画ルート図 川崎市ホームページより

## 新しい時代への政策提言

### カーボンクレジットと生田緑地の再生について

カーボンクレジットは生物多様性、脱炭素社会に向けたツールであり、日々加速度的に発展することは必至。また全国都市緑化フェアの開催を迎える本市において都市型カーボンクレジットの実現に向けて取り組むことは川崎市の価値を高めると考え情報収集や調査研究を提案。都市部における森林吸収量の算定には課題がある国の実証実験の動向や技術革新が進行していることから調査研究を進めるとの回答。また生田緑地での取り組みは30by30が目指す活動であり、本市が30by30アライアンス（同盟やグループの意味）に参加し、更なる生物多様性への政策の加速を提案。川崎市単独でのアライアンスへの参加を検討すると答弁。川崎市は以前環境行政のトップランナーでした。その誇りと自信を持って各局協力しての取り組みを全ての職員さんに要望しました。

### 30by30とは？

2030年までに陸と海の30%以上を保全・保護しようとする目標。環境省が30by30アライアンスを発足させ、企業や自治体などが参加して、生物多様性保全に資する地域を認定する仕組みを進めています。



### 市関連施設的环境貢献について

民間に太陽光パネルを義務化した一方、市関連施設が脱炭素に貢献していないこと、すなわち土地貸し付けに伴った施設は市の環境配慮標準から除外されていることを指摘。更に脱炭素の取り組みの数値化について提案。国の建築物省エネ法の全面施行も間近となっているため法を踏まえて貸し付けについても対応を協議する、また見える化は重要な点であり今後数値目標の設定など調査研究を進めるとの答弁を得ました。市内最大のCO2排出事業者は川崎市であり関係局と協議を進め早期に実現するよう要望しました。